

2025（令和7）年3月14日

## 共有船「貴興丸」での廃食油回収及び廃食油由来の バイオ燃料を用いた供給・運航トライアルを実施

鉄道・運輸機構（以下「機構」）は、豊田通商株式会社、豊通エネルギー株式会社、株式会社ダイセキ環境ソリューション、有限会社中川油脂商店及びMU アークライン株式会社との連携のもと、機構とMU アークラインの共有船であるセメント船「貴興丸（たかおきまる）」を用い、同船内で使用された廃食油の回収及び廃食油由来のバイオ燃料を同船に供給し運航するトライアルを実施しました。

2050年度の内航海運におけるカーボンニュートラルに向け、バイオ燃料への期待が高まる中、2023年に設置した「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会」（事務局：機構）では、これまで廃棄されることがほとんどであった内航船からの廃食油に着目し、船内からの回収や、バイオ燃料としての利用にかかる課題抽出や調査を行ってきました。（※）

今般、機構では、同連絡協議会の活動と連携した技術調査の一環として、関係各社との連携のもと、本年2月1日に、MU アークラインとの共有船「貴興丸」を用い、従来使用されてきた重油と廃食油由来のバイオ燃料との混合燃料を名古屋港において供給後、運航するというトライアルを実施し、特段の問題が生じないことを確認しました。

また本トライアルに先立ち、1隻あたりの回収量が少なくこれまで着手されてこなかった、内航貨物船から使用済み廃食油を回収するための工程・手法の調査を実施し、調査結果に基づき実際に「貴興丸」から廃食油を回収し、燃料として精製するというトライアルも実施しています。

今回、内航船から使用済み廃食油を回収しバイオ燃料を精製するという工程と、廃食油から精製されたバイオ燃料を内航船に供給、運航するという2つのトライアルを実施し、廃食油の回収・利用という一連のサイクルが内航船舶においても実現可能であることが確認できました。

今回のトライアルを含む技術調査の結果と得られた知見は、今後、調査報告書や同連絡協議会の活動報告等の形で公開する予定です。

これからも、内航船舶での廃食油回収とバイオ燃料の活用が広まるよう、引き続き「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会」の活動を通じ、検討を深度化してまいります。



共有船「貴興丸」で使用された廃食油の受け渡し

※「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用の連絡協議会」について

2023年8月31日プレスリリース資料

[https://www.jrnt.go.jp/corporate/public\\_relations/pdf/20230831\\_haisyokuyu.pdf](https://www.jrnt.go.jp/corporate/public_relations/pdf/20230831_haisyokuyu.pdf)

<本件に関するお問合せ先>

共有船舶建造支援部 技術企画課

TEL : 045-222-9124